

3

A mermaid lived in the chilly, blue, northern sea.

One night, the mermaid crawled onto a rock above the sea surface, and was looking at the view around the sea.

From time to time, the moonlight, passing through the cloud breaks, was sorrowfully shining on the sea surface.

For a long time, the mermaid had no one to talk to and was always jealous of the humans living in the brighter world above the sea.

(Although we mermaids and humans look hardly different, why mermaids have to live in such a cold ocean with fish instead of with humans?)



5

The mermaid gently stroked her belly.

There was a baby inside the mermaid's belly.

(I don't want my child to have such a miserable life like mine. It will be tough to live apart, but as long as my baby can live happily somewhere, I am fine. I know humans are all kind hearted and they will surely take great care of my baby.)

After a short while, the mermaid swam through the dark cold sea and headed to the seashore.

There was a reflection of a light from a distant shrine on the small coastal hill, shining on and off on the waves.



にんぎょが すんでいたの、あおく つめたい、きたの うみでした。

あるばん、にんぎょは みなもに うきでた いわにあがって、
あたりの けしきを ながめていました。

ときおり、くもの すきまから こぼれた つきの あかりが、
うみの うえを さびしく てらしていました。

にんぎょは ながいあいだ、はなしをする あいても なく、
いつも あかるい うみの うえで くらす にんげんたちに
あこがれていました。

(わたしたち にんぎょの すがたは、
にんげんと ほとんど かわらない。
それなのに なぜ にんぎょは にんげんでは なく、
こんな つめたい うみのなかで、
さかなたちと いっしょに くらさなければ いけないの?)



にんぎよは じぶんの おなかを やさしくなめました。

にんぎよの おなかの なかには、こどもが いました。

(これから うまれてくる こどもには、こんな くらい、
かなしい せいかつは させたくない。
はなればなれで くらすのは さびしいけれど、どこにいても
げんきで くらして くれるのならば、それだけでいい。
にんげんは みな やさしいひと ばかりだから、
きっと このこも かわいがってくれるはず)

しばらくして、にんぎよは くらく つめたい うみを およいで、
りくちに むかいました。

はるか かなた、かいがんの こだかい やまに ある
じんじゃの あかりが、なみまに うかんで きえていました。

